

2021 AUTOBACS SUPER GT ROUND 3 鈴鹿サーキット

開催地：鈴鹿サーキット（三重県）／5.807km

8月21日（予選）天候：曇り コースコンディション：ドライ観客数：7,000人

8月22日（決勝）天候：晴れのち曇り一時雨 コースコンディション：ドライ観客数：11,500人

“リベンジ鈴鹿“に大成功！ 地元で30号車のベストリザルト、6位入賞果たす



岡山国際サーキットでスケジュールどおりスタートしたスーパーGTではあったが、新型コロナウイルスが再び猛威を振るったことにより、シーズン中にも関わらず、本来5月末に行われるはずだった鈴鹿サーキットでの第3戦は、延期が決定。しかし、それから3か月。ツインリンクもてぎの第4戦を挟みはしたものの、8月21～22日に「FUJIMAKI GROUP SUZUKA GT 300km RACE」として開催されることとなった。



今年もスーパーGTにaprは2台体制で挑み、「#30 TOYOTA GR SPORT PRIUS PHV apr GT」をドライブするのは永井宏明選手と織戸学選手。タイヤは信頼のヨコハマが使用される。

「#30 TOYOTA GR SPORT PRIUS PHV apr GT」は、ついにトンネルから抜け出した。すでにスピードには高評価を得ていたが、序盤の2戦はどうにもツキに見放されていた感が。しかし、前回のもてぎでは、予選14番手から決勝レースをスタートし、織戸選手が周回を重ねるごと“猛者ども”相手に冴えた走りを見せ、入賞圏内にまでジャンプアップ。後半スティントを担当した永井選手がポジションを守り抜いて、昨年の第7戦もてぎ以来となる入賞を、しかも8位で果たすこととなった。

その結果、サクセスウエイトを9kg積むことになったが、まだまだどうして！ 鈴鹿はホームコースで昨年も活躍が期待されながら、2戦ともに後続車両に撃墜されて悔しい思いをしていた。日程変更で前回からのインターバルは1か月あまり、いい勢いも余韻も残した一戦で、引き続きの活躍が期待される。

公式練習 8月21日(土) 9:00~10:40

先週から、まるで梅雨が戻ってきたと思わせるほど全国的に大雨が続いていたものの、レースウィークが始まれば猛烈な暑さと強い日差しに見舞われるだろう、という予想は完全に覆されてしまう。搬入が行われた金曜日の朝まで雨は降り続いて、その後も季節外れとも言うべき低温となってしまう。それでいて湿度は高いのだから、さわやかななどという印象もまるでなかった。

土曜日の9時から行われた公式練習は、開始時の気温が26度で、路面温度は28度。湿度は82%にも達していた。天候が急変する可能性もあったから、開始と同時に織戸選手と「#30 TOYOTA GR SPORT PRIUS PHV apr GT」はコースイン。そのまま周回を重ねていく。持ち込みのセットが予選に対し、完璧に決まっていたことから、計測3周目には1分59秒043をマーク。その後すぐに永井選手と交代する。やがて永井選手も2分0秒513を記すまでに。

1時間ほど経過したところで、織戸選手が再び乗り込み、決勝セットの詰めが行われる。周回ごとタイムを詰めていき、やがて2分2秒958が記録されるまでとなる。仕上がりは順調だ。10番手で終えた公式練習の後には20分間のFCY(フルコースイエロー)テストも行われ、前半は織戸選手、後半は永井選手が走ってFCYへの対応も問題なし。予選、決勝レースに向けて準備は万端だ。



公式予選 Q1 8月21日(土) 14:30~14:40



今回の予選 Q1 に「#30 TOYOTA GR SPORT PRIUS PHV apr GT」は A グループで走行し、引き続き織戸選手が担当。気温は 27 度、路面温度は 31 度に若干上がり、また鈴鹿は 1 周が長いことから、計測 2 周目からアタックを開始することとなった。しかし、タイヤ特性の違いからか、計測 2 周目にはまだウォームアップ中の車両も多く、完全なクリアを取りきれず。それでも 1 分 58 秒 795 をマークし、続けてのアタックもやはり行く手を阻まれる格好になり、1 分 58 秒 952 とタイムを落としてしまう。

それでも織戸選手はトップとコンマ 5 秒差の 5 番手につけ、Q1 突破に成功。ここまで 4 戦中 3 回目となる、永井選手へのバトンリレーに成功した。

公式予選 Q2 8月21日(土) 15:23~15:33



Q2 担当の永井選手も、アタック開始は計測2周目から。しっかりとクリアラップが取れたこと、そして何より永井選手の自信に満ちた走りで、2分を切る1分59秒323をマークする。が、惜しまれるのは、もう1周アタックをかけたものの、アタック終了車両に完全に道を塞がれてしまったことだ。やむなく永井選手はアタックを終了。チェッカーを待たずピットに戻ってきた。

しかし、結果は9番手と、FRに改められてからの「#30 TOYOTA GR SPORT PRIUS PHV apr GT」にとって、過去最高となるポジションを獲得した。5列目からのスタートであれば、入賞はもちろんのこと、前回の8位を上回る結果が望まれるところ！ 期待はどんどん高まっていった。

永井宏明選手



クルマ的には素晴らしい仕上がりになっていたし、ヨコハマタイヤのパフォーマンスも高くそのおかげです。織戸選手も引っかかっていたようですが、上位でクリアし、いい流れを作ってもらえました。計測3周目に引っかけり、もう少し上には行けたかと思いますが、この順位にはすごく満足していますし、気持ちよく走れました。

決勝も自信を持って臨めると思います。

目指すは2戦連続の入賞です。抜きにくいサーキットですけど、前の方でレースができればいいなと思っています。

今回は地元ですし、応援団も来てくれるのでいつも以上に頑張ります！！



織戸 学選手



しっかりクリア取っていたのですが、みんなまだアタックしていなかったんで、ちょっと引つかかっているんですよ。次の周も前にいたので。いいアタックはできなかったけど、とりあえずQ1は通れたので満足。クルマの仕上りはいいし、ヨコハマタイヤもすごく良かったよ！

そして何より永井選手が、9番手というポジションを獲ってくれたので、決勝もこの調子で行きたいですね。頑張ります、最低でもポイントを獲りに行きますよ！



金曾裕人監督

最近、ヨコハマタイヤがすごく良くなっていて、それに合わせたクルマのパッケージも良くなって、織戸選手はもちろん、永井選手もすごく速くなって、セットアップも決まりました。全部が正しい方向に行ってくれているのは僕らにとって、非常に嬉しいことです。

織戸選手も永井選手もアタック中に詰まっているから、まだ上に行けたんじゃないかな？

でも、永井選手にとっては初のシングルグリッドですし、レースの内容としても面白くなるんじゃないでしょうか。去年は2戦ともにロケット弾にぶつけられているので、リベンジレースができると思いますし、たぶん結果はついてくると思っています！



決勝レース (52 周) 8 月 22 日 (日) 14:40～



日曜日になって、ようやく上空には雲の切れ間から強い日差しが注がれるようになり、気温は 31 度、路面温度は 43 度まで上昇して、本当の夏らしさが戻ってきた。決勝レースを前に行われた 20 分間のウォームアップには、今回もスタートを担当する織戸選手から「#30 TOYOTA GR SPORT PRIUS PHV apr GT」に乗り込むこととなった。

コンディションとのマッチングを確認しつつ、織戸選手は 2 分 1 秒 478 をマークした後、永井選手にバトンタッチ。そのままチェッカーが振られるまで走ってもらう予定だったのだが……。130R で大クラッシュが発生！ そのため、予定の周回数をこなせなかったものの、今回の永井選手なら心配なさそうだ。そのクラッシュによるマシン回収、コース改修のため、以降のスケジュールはすべて 10 分間遅らされることとなった。

織戸選手はスタートダッシュ良く、オープニングラップのうちにひとつ順位を上げて8番手に。なおも順位を上げるべく、前の車両に離れず周回を重ねていく。そんな中、5周目にトップを走っていたGT500クラスの車両がクラッシュ。FCY実施となるも、すぐにセーフティカー(SC)に切り替えられる。約20分間、6周に及ぶ先導の後、リスタートが切られ、先行車両の後ろに張り付いていった織戸選手は、次の周のストレートでオーバーテイクに成功し、7番手に躍り出ると、今度は5番手を争うグループの背後につけることとなる。



この後、自力でのパスこそかなわなかったが、すでにミニマムの規定周回を超えていたこともあり、前に行く車両が次から次へとピットに入っていく、29周目には「#30 TOYOTA GR SPORT PRIUS PHV apr GT」が、暫定とはいえトップに浮上！そして31周目に永井選手に交代、タイヤも4本換えてコースに送り出す。

全車ドライバー交代を済ますと、「#30 TOYOTA GR SPORT PRIUS PHV apr GT」は7番手。ポイント圏に入ったものの、これに留まらず。39周目にはポールポジションを獲得していた車両を永井選手は捕らえ、6番手に浮上したのだ。終盤は4番手を争う集団にも追いつき三つ巴のバトルを繰り返すまでに！

そして、そのままのポジションでゴールした「#30 TOYOTA GR SPORT PRIUS PHV apr GT」は、最上位となる、6位という結果を手にする事となった。次回のSUGOのレースにはサクセスウエイト24kgを積んで臨むこととなるが、引き続きの活躍が期待できそうだ。



永井宏明選手



何もかもうまく噛み合って、いい結果が出せたと思います。織戸さんと同じタイヤに4本とも換えて、フレッシュな状態で走れたのも良かったですね。うまく機能していたと思います。ペースが良くて、うまく抜くことができ順位を上げることができました。その後もバトルができて、「あわよくば4位」とも思いながら走っていましたが、そう思えたのはかなり嬉しいです。ポイントもしっかり獲れましたし、これからもっとウエイトを積むことになりましたが、次のSUGOも頑張ります！

織戸学選手



良かったです。僕のステイントも順調でしたが、何より永井選手がしっかり走りきってくれたのが、いちばん嬉しいです。今の僕らの実力でもぎ取った6位なので、これからももっと頑張ります。もちろん、もっと上を目指します。ヨコハマタイヤもすごく良かったですよ！

金曾裕人監督

去年のリベンジレースは果たせました。4位も狙えたと思いますが、最後はせつかくのポイントを獲得したいというのと、リスク背負うのをやめたというだけで。永井選手自身も「行けたはずだけど」と、悔やんでいましたけど、もう十分です（笑）。最高の結果も出ているし、地元の三重県のレースで、このような結果が出たのはドライバーも含め、チームとして全体的なパフォーマンスアップの証拠になったと思います。何より、完全なプロスポーツの世界で遜色なく戦えた永井選手がこのレースのMVPです。

佐橋エンジニアの頑張りもあり、速さと安定感あるセットアップでアベレージも良かったし、ヨコハマタイヤも非常に良かったしチームワークも完璧。点数つけるとしては100点以上つけたいレースでした。織戸選手はさすがプロ、そして永井選手は更に進化しますので、残り4戦もご期待ください。

